



ルーマニアの首都ブカレストと地方都市

Bucharest, the capital of Romania, and provincial cities

竹原直人

TAKEHARA Naoto

株式会社東京ソイルリサーチ/
つくば総合試験所/特殊試験室/係長

平成16年にルーマニア地震災害軽減センターでの地震災害軽減計画プロジェクトに携わり、首都ブカレストに2ヶ月ほど滞在した。ルーマニアはヨーロッパ南東のバルカン半島に位置し、東に黒海を望み、ブルガリア、ハンガリー、ウクライナなどに囲まれた国である。国名のルーマニア (Romania) はローマ時代に民族が起源したことに由来しており、ラテン的な特質を持ち陽気で人なつこい国民性といえる。短い期間ではあったが、休日にはあちらこちらと出かけることができた。

1. ルーマニアの概要

ルーマニアでは人口2250万人が本州と同程度の面積を持つ国土に暮らしている。北海道とほぼ同緯度で、気候は大陸性であるが比較的温暖である。春は短く秋が

比較的長い。年間を通してほぼ一定の降水量は、山地で多く平野部では少ない。しかし地球的な異常気象のせい、今年の5～6月にかけて降り続いた豪雨による洪水で、ルーマニア全域に大きな被害が発生している。

人口の約90%がルーマニア人で、その他はハンガリーやドイツなどの民族である。公用語はルーマニア語で、英語は都市部で通じる。国民の大多数がギリシャ正教に属している。原油を年600万トン産出し、工業水準も低くはない。肥沃な大地の恵みで小麦を産し、凶作でも小麦の内需を賄うことができ経済的ポテンシャルが高い。現在のところEU加盟に向けて、国を挙げて努力している。

2. ブカレスト

ブカレストはルーマニアの首都として200万人以上が暮らしている。共産主義を倒した流血革命の後、今や資本主義が定着しつつある。

●プロジェクトと地震

参加したプロジェクトは地震災害軽減を目的としている。ルーマニアは日本と同じように、数十年に一度大地震の発生が懸念されていて、その時の災害が少しでも軽くなるように耐震構造物の設計法、既存構造物の耐震判断、耐震補強の指導や各地域の揺れの程度把握、構造物の基礎設計に必要な地盤調査法の指導などが主な目的である。

活動はブカレスト市内の地震災害軽減センターや大学で行ない、市内のホテルに滞在しプロジェクトに参加した。そんな中、帰国寸前の深夜に地震(マグニチュード6.5)が発生した。ブカレストは、近い将来、震度5～6程度の地震が発生すると予想されていたので、揺れ始め



■図1-位置図(出典:外務省ホームページ)



■写真1-市内のビル



■写真2-耐震補強中のビル

た瞬間は少なからず驚いた。幸いなことに震度5までは揺れず、体感的には震度3～4程度の地震で済んだ。しかし市中心部では地震に慣れていない大勢の人々が怖くて寝られず、外で夜を明かしたそうである。

市内の繁華街は10階程度の中層建築物が多い。耐震性を考慮せずに建てられた古いビルは、揺れも大きいのだろう。1日でも早くビルの耐震補強がなされることを祈るばかりである。なおこの地震により、ビル外壁の落下でケガ人が出たことが報道されていた。

●衣食住

ブカレスト市内の第一印象はパリのような雰囲気である。石畳の道路や所々に残る美しい町並みは、歩いていて楽しい。負の遺産としてそびえ建つ旧共産党本部だった国民の館(故チャウシャスク大統領が作らせた宮殿)や統一大通りの巨大さには驚かされる。その他、教会や博物館・美術館も多く市内の見所は多い。共産主義時代の不毛な計画で沢山の史跡が破壊されたと聞く。しかし市内を丹念に見て歩くと、史跡や名所と思えるよ

うな建築物が数多くあり、中世の雰囲気が好きの人にはたまらないと思う。

市内の移動は主にタクシーを利用し、たまに地下鉄に乗った。タクシーは会社によって距離毎の運賃が異なるので注意が必要である。地下鉄は便利だがルーマニア語表記なので慣れる必要がある。バスやトロリーバスも市内を走る重要な交通機関だが、利用する機会はなかった。

ルーマニア料理は牛・鳥・豚と肉主体である。どんな料理が出てくるのかと不安であったが、日本人の口に合うものが多い。挽肉を筒状に丸めて焼いた“ミティティ”やロールキャベツ風の“サルマーレ”が代表的。個人的には、肉や野菜がたくさん入っている“チョルバ”と呼ばれるスープが気に入っている。サラダは味付けなしで出てくる。卓上にはどこでも必ず油・酢・塩・胡椒があるので自分の好みに味付けをする。デザートはドーナツ風の“パパナッシュ”がおいしい。ルーマニア料理のレストランの場合、付け合わせの品もあるので量が多くなり、



■写真3-国民の館



■写真4-民族衣装



■写真5-オペラ座内部



■写真6ーペレシュ城

■写真7ーブラン城

■写真8ーブラショフの広場

つい食べ過ぎてしまうので注意が必要である。これはルーマニアの人たちが、基本的に朝・夕の2食で沢山摂取するためではないかと思われる。3食の場合でも、昼はほんの少しつまむ程度の食事のようである。

お酒はスモモの蒸留酒“ツイカ”が代表とされる。しかし強いお酒なので頻繁には飲めない。いつも勧められるのが種類の豊富なビールで、安くてうまい。レストランでもスーパーでも各種ビールを揃えているので飲み比べが楽しい。またワインも自国や隣国ブルガリアで良品が生産され、手軽に美味しいものが飲める。

市内には各国の料理店が点在する。ルーマニア料理に飽きると日本料理店をはじめ、中華・ベトナム・イタリア料理店によく出かけた。もっとも日本料理店は、土地柄のせいか新鮮な魚の入手が困難と思われ、過大な期待は禁物である。大きなスーパーマーケットでは魚も置いてあるが、冷凍魚だけで生魚は見かけなかった。

民族衣装は市内では見かけない。我々日本人と同じで特別な理由がないかぎり民族衣装はあまり着ないようである。偶然にも市内の農村博物館のお祭りで、テレビ出演中の人々の民族衣装を見ることができた。どこの地方の衣装かは不明である。またオペラ座にオペラを見に行った。欧州の国々と同じように演劇・美術などの文化への傾倒は相当なもので、市民の人気は高い。初めてオペラを見るという貴重な経験をしたが、日本でもルーマニアのように安く気軽に見られたらと思うことしきりであった。

3. シナイアとブラショフ

シナイアはブカレスト市内から北に100km程のルーマニア中央を走るカルパチア山脈の南側山麓にある。ブラショフは山脈を越えさらに北へ50kmの所にある。

シナイアは夏が避暑地、冬はスキー場、さらにブカレ

ストに近いということもあって、私が訪れた町の中でもっとも観光地化している印象が強い。町は17世紀のシナイア僧院の建立により始まったそうで、18世紀に王侯・貴族の別荘地として繁栄した。

ここではルーマニア王室が8年の歳月をかけて建てた宮殿ペレシュ城を訪れた。ルーマニアで最も美しい城と呼ばれていて、森の中にそびえ立つペレシュ城の美しさは一見の価値がある。城内の見学はツアー形式で見学者が10名ほど集合すると出発する。ルーマニア語・英語・フランス語のツアーが随時ある。城内は王室の収集した美術品・陶磁器・宝飾品・中世の武器が飾られており、日本の古い陶器も飾られていた。

ブラショフへの途中に吸血鬼伝説で有名なドラキュラの城・ブラン城がある。ブラン城が吸血鬼の居城として有名になったのは、15世紀に実在したワラキア公ブラド3世が異常な残虐さを持っていたことだといわれている。城内は所々に迷路のような階段があり、日本の忍者屋敷を思い出す。内装も質素で目を見張るようなものはない。それはこのブラン城が外敵に対して見張りの役目をする出城であり、居住を目的としていないためと思われる。ブラン城はドラキュラゆかりの城ということで国内外の観光客に人気がある。入り口付近には、木工芸品・レース織物などの多数の土産店があり、観光客で賑わっている。

ブラショフは中世の町並みを残した美しい都市である。町の中心のスファトゥルイ広場の周辺に多数の教会・博物館・美術館がある。広場の片隅でカプチーノを飲んでみると中世に逆戻りしたかのような錯覚さえ覚える。ここには今回の滞在中二度訪れたが、何度来ても美しい町並みにしばし見とれる。昼食はたまにはイタリア料理にしようと看板を頼りに入ってみたが、メニューを見ればメキシコ料理であった。ブカレストではメキシコ料

理にお目にかかれなかったので得した気分になるが、ルーマニア風にアレンジされていた。

4. ギュルギュウ(ドナウ川)

欧州唯一の大河ドナウ川を間近で見たかったのと、ブカレスト市内のレストランでは、安心して魚料理を食べられないことから、ドナウ川沿いのレストランなら新鮮な魚が食べられるはずと期待して、ブカレストの南約60kmにあるギュルギュウという町に行った。

到着すると川幅数百mはあろうか、ドナウ川は予想以上の大きさで驚いた。対岸にあるブルガリアの商工業都市ルセがかすんで見える。しばらくして第二の目的であるレストランに入る。岸边に建つ店でドナウ川を望みながらの食事は、待望の魚(ナマズ・コイ)料理でもあり大いに満足した。

5. シギショアラ

シギショアラはブカレストから北北西に約220km、自動車で4~5時間の距離にある。ユネスコ世界遺産にも登録されているトランシルバニア地方の美しい町である。



■写真9ードナウ川



■写真10ーシギショアラの山並



■写真11ーシギショアラの時計台



■写真12ー要塞教会内部

シギショアラへ向かう途中の山並みや農村風景は、紅葉の時期でとても美しい景観であった。映画「ブリジット・ジョーンズの日記」で主演しているレニー・ゼルウィガーが、2003年のアカデミー助演女優賞を受賞した「コールドマウンテン」での美しい風景はこの地で撮影されたそうで、印象深い景観を見せてくれる。

シギショアラは時計塔を中心として城壁に囲まれた高台に広がり、中世風の整った町並みはドイツの影響が強い。宿泊したホテルも由緒あるものらしく「イギリスのチャールズ皇太子も泊まったのよ」と宣伝する写真が掲げられており、今でも記憶に残っている。

シギショアラから自動車1時間ほど離れた要塞教会を訪れた。教会は質素なたたずまいの農村にあり、内部の写真撮影を行なうことができた。教会内部の写真はなかなか撮影できないので貴重かもしれない。少人数のせいか日本人のせいかは分からないが、教会のガイドの説明は多岐にわたり、普段は公開しない古民具の説明までしてくれた。

6. おわりに

幸いなことにルーマニアに大地震は未だ発生していない。ルーマニアでは密かな日本ブームも起きていると聞く。今後も日本とルーマニアの関係が良好に続くことを願う。